4/16(sun)
@Souzoukan

第三回 みんなで伊那新校の学習空間を考えよう

Thinking&Talking about New High-School!

3

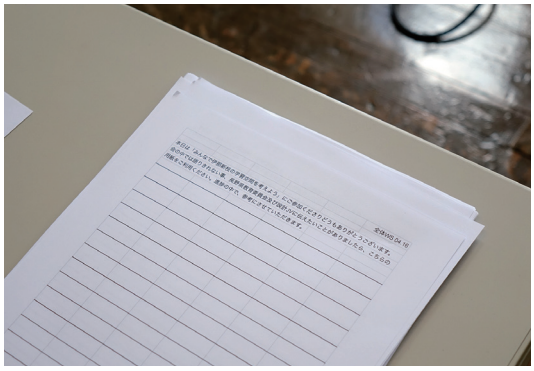
↑ 地域の方々が振り返る「心震える瞬間」のお話

●参加者
上伊那地域にお住まいのみなさん
＋ 設計 JV チーム　　合計 40 名

4/16（日）【第三回 伊那新校ワークショップ】
10:00-12:00　伊那市創造館 3F 講堂

3 回目となる新校ワークショップでは、それぞれの体験や記憶・思い出を振り返ることで、「心震える瞬間」が昔も今も変わらずにあること、その感情を共有することで、学習空間に残したい「価値」の抽出、共有を目指した。前半の異世代 4 名による座談会では、後半のワークを先取りし、促進するように設定した。ワークの発表の中で、口々に語られる「(残したい) 価値」は、改めて風土や地域の「寛容性」に支えられていることへの気づきがあった。

↑ かつて高校生（当事者）だった大人たちが記憶を振り返る試み



↑ ワーク以外でも意見などを伝えたい方にと、今回より記述用紙を用意

●目的・趣旨

NSD のビジョンへの共有と理解の促進と、ワークショップ（この場）の意味付けを丁寧に説明する。今回は、アイデア出しとは異なるワーク「過去を想起する／何か新しいことを考える場ではない」として設定することで、リラックスした雰囲気を重視した。

●NSD の考える共学共創のビジョンの共有
●ワークショップによるアイデア発散のプロセス体験
●それぞれの学びの体験の中で「大事なこと」は時間を超えて普遍的な価値として共有されうること。個人の関わりの根源にある地域性・関係性が持つ意味に触れる。

↑ かつて高校生だった頃の「瞬間」を想起しながら盛り上がるテーブル

第三回 みんなで伊那新校の学習空間を考えよう

Thinking&Talking about New High-School!

3

●当日のフロー（前半～インプット）

1. 県教委 田中 T より NSD プロジェクトの説明

・「長野スクールデザイン 2020」5 つのポイント
・「学校づくり・人づくり・地域づくり」
　個人の「ウェルビーイング」を前提にしている
・伊那新校開校までのスケジュール・プロセスの説明
　（基本計画・基本設計 … ）という流れの中で、
　生徒・教員・地域の意見を設計に反映できるように。
・「伊那新校の学びのイメージ」とは
　①探究活動（学校の内外での充実）
　②他者との協働
　③自主的な創造的な活動
上記 3 点の実現のためには、「単位制」と「進学の保障」による新たなシステムの導入が必要。

---

2. インプット

JV須永より、ワークショップについて

・ワークショップ「何のために、どうやって」やるのか、「新しい学校・学び・社会」をみんなで変えていくため。
・設計チームの役割（思いや意見をくみとり、つなぐ）
・誰でも参加でき、自由に発言できる「場」が必要
・地域の（各個人）の役割への気づき、動機づけ
・先生たちとの協議（ワーキンググループ）、NSD 会議の報告

JVチーム瀧内より、補足説明

・ワークショップや今後を含めた大きな流れとして、「地域の関わり方のデザイン」について説明

●「心震える瞬間」についての座談会

具体的なエピソードの共有、の試み

・伊那北、伊那弥生ケ丘高校の卒業生 4 名による座談会
・設計 JV チームの井崎が進行を担当

座談会への参加メンバー

・唐木さん（伊那北高校出身、伊那市在住、40代）
・中村さん（弥生ケ丘高校出身、伊那市在住、70代）
・赤津さん（弥生ケ丘高校出身、山梨県在住、10代）
・馬場さん（伊那北高校出身、伊那市在住、20代）
・井崎さん（伊那北高校出身、伊那市在住、40代）

●この座談会の意図

各世代の伊那北高校、弥生ケ丘高校の OB・OGの方にお集まりいただいて、これから「新しい学び」になっていく中だからこそ、残したい伝統、地域性などが、思い出の中から抽出されるのではないかという試み。

↑ 開始前に眺められるようにと、これまでの「付箋（まとめ）」を掲示。

↑ 従来よりも踏み込んだビジョンである「NSD プロジェクト」の説明

↑ 40 人を超える地域の方々が参加された

↑ 初めての参加者向けに、設計 JV チームによるこれまでの振り返り

↑「探究」「文化祭」の思い出など 4 名の方に話していただいた

第三回 みんなで伊那新校の学習空間を考えよう

Thinking&Talking about New High-School!

3

●「心震える瞬間」についての座談会

話された内容

「先生方からの、ちょっとした言葉が心に残る」
「仲間と成し遂げた文化祭のファイヤーストーム」
「裏方から見た、同級生の輝く姿」
「探究学習から発展して実現したイベント」
・・・

探究や地域の大人との関わりについて

「地域にはあたたかな見守り・眼差しがあった」
「自由という言葉の意味が、時代により変化している」
「かつては放任だったが、それも探究に繋がっていた」
「自分たちへの地域からの期待を感じた」
・・・など、それぞれの思い出を振り返った。

「新しい学び」や「これからの学校」の姿へとつながるものがある。

↑会場の配置・構成を少し変えて、即席の座談会に。

↑ 高校時代にコロナ禍に直面した若い世代。印象的な出来事を語る。

●当日のフロー（後半～ワーク）

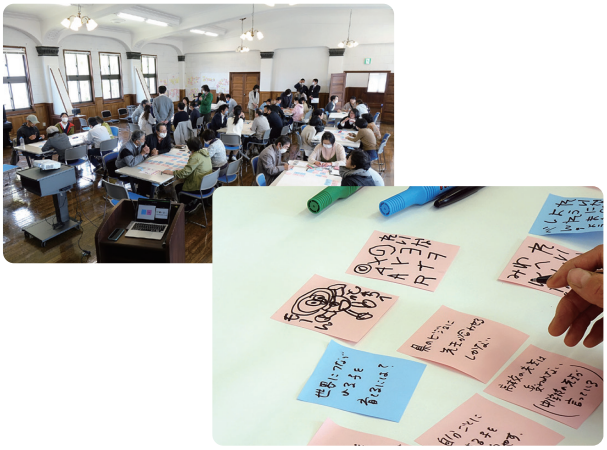
JV瀧内より「ワークショップ」の説明

・本日の WS の位置付けと、目的の説明

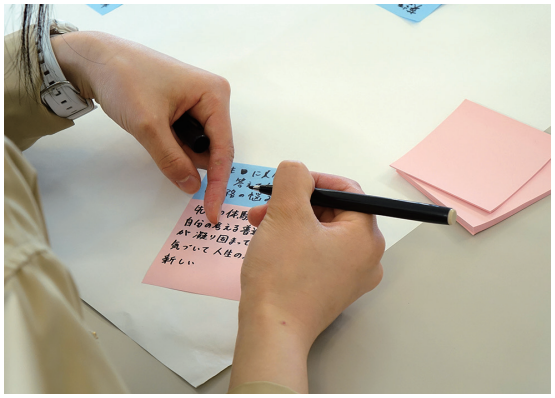
テーマ

「高校での「心震える瞬間」は？」

誰しもが感じている「大事だな」と思う瞬間やエピソード（と、それは何故か）について話し合い、既存の学びや学習空間で残していくことを共有してみます。

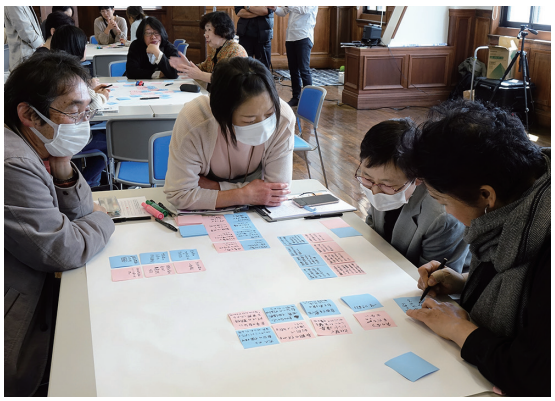


・「保護者」テーブルを（前回同様に）一つ設定
・「学生・高校生」テーブルを一つ設定



↑ まさに、自分ごととして「心震える」「大切な」思い出を振り返る。

↑ 初めて会う、という緊張感もある中には「話す自由・話さない自由もある」



↑ それぞれのエピソードが具体的で面白く、ついつい傾聴しあう

第三回 みんなで伊那新校の学習空間を考えよう

Thinking&Talking about New High-School!

3

●全体共有（抜粋）

9つのテーブルから、最も盛り上がった話題、エピソードを「二つ」まとめつつ、発表していただいた。

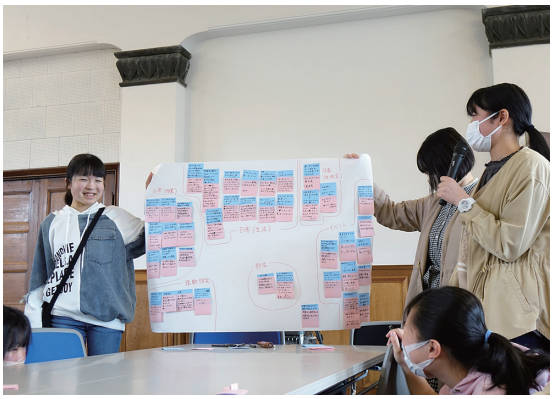
学生・高校生から　●イベントも大事だけど、日々の生活や学習に関わることを充実させたい　●教室から見える空や景色

各テーブルから　●あえて整理せずに「哲学に生きろ」「高校生活を思い切り楽しめ」　●「部活への打ち込み」‥好きなことに打ち込める環境（ハード面や単位制）を整える。　●学校に所属する「部活の顧問・担任の先生以外との大人」との接点を持てるといい。
●受験・進学での伝説の先輩の話（ボールペンを 150 本使い切ったという）。　●目的がない生徒だったが、（先輩に勧誘されて）クラブ・部活に 3 年間打ち込んだ。
●創造性、生み出していく（ものづくりの）土壌がある、それは伊那の特徴。　●「人との関わり」地域の大人が自分の個性を認めてくれた、自己肯定感が高まった。
●「学校の周りの環境」の思い出、桜・銀杏・ツツジ・池…　●団塊世代の 4 人テーブルだった。男子／女子校の思い出の違い。　●恋と悪（ワル）、現実と妄想のずれのショック、揺らぎからの感情が育くまれる。

保護者から　●こういう話の場はとても大事だが、子育て中の当事者に情報は伝わりづらい。　●来やすい？本当かな？気楽にひらけている？、、と不安になる
●「こういう人たち（設計 JV・地域の大人含め）」が進めているんだ、と顔の見えるような関係や情報発信があると良い。

↑発表では「もっとも盛り上がった点、2つ」に絞っていただきました

↑「先輩」「恋」「ワル」など年代ごとの積み重ねがエピソードから伺えます



↑最後に発表したのは、「現役の学生・高校生グループ」からのリアルな意見

●総評・まとめ（ファシリテーターから）

これまでは、新しい学びに対し、地域の皆さんがどう関わりを持てるのかを、どんな生徒がいるのか、また、学びのシーンなどから考えてきましたが、今回は残したい、大切にしたい風景とその理由を考えました。そのなかで、これまでの「日常」のなかに、新しい学びのヒントが、これまでとこれからをつなぐヒントがある。そんな意見やアイデアが多くあったと感じています。

また今回は、これまでより多くの「地域の願い」が出ていたと思います。この願いについてはNSD会議等を通じ、計画に織り込まれるよう進めていけたらと思っています。

次のワークショップからは、計画に織り込まれる「地域の願い」と「地域の関わり」をより集約していく、次のステージに進んでいければと思っています。